

小樽商科大学のグローバル教育 ～ギャップイヤー・長期学外学修プログラムの開発～

国立大学法人 小樽商科大学

社会情報学科准教授／学長特別補佐／グローバル戦略推進センター教育支援部門

大津 晶

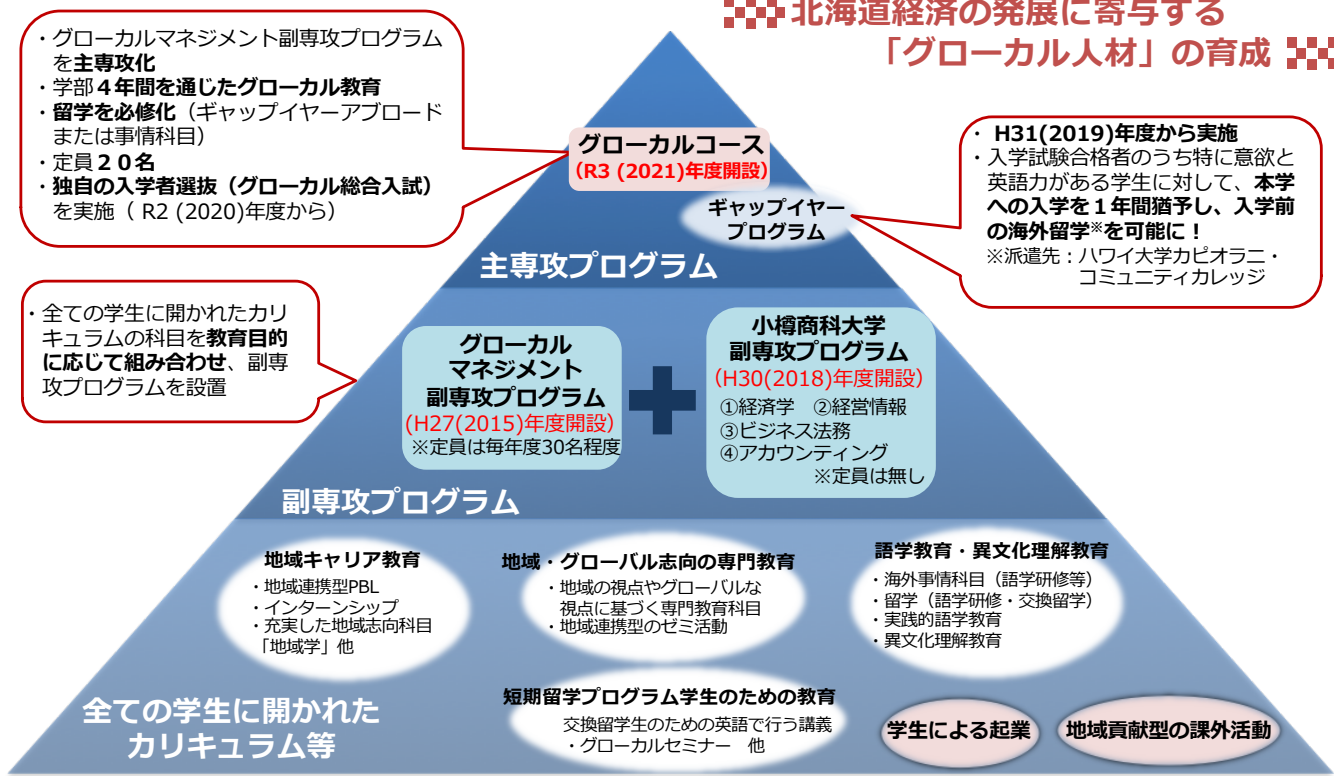
学生：渡邊すず香（商学部商学科3年）

村上竜清（ギャップイヤープログラム参加学生）



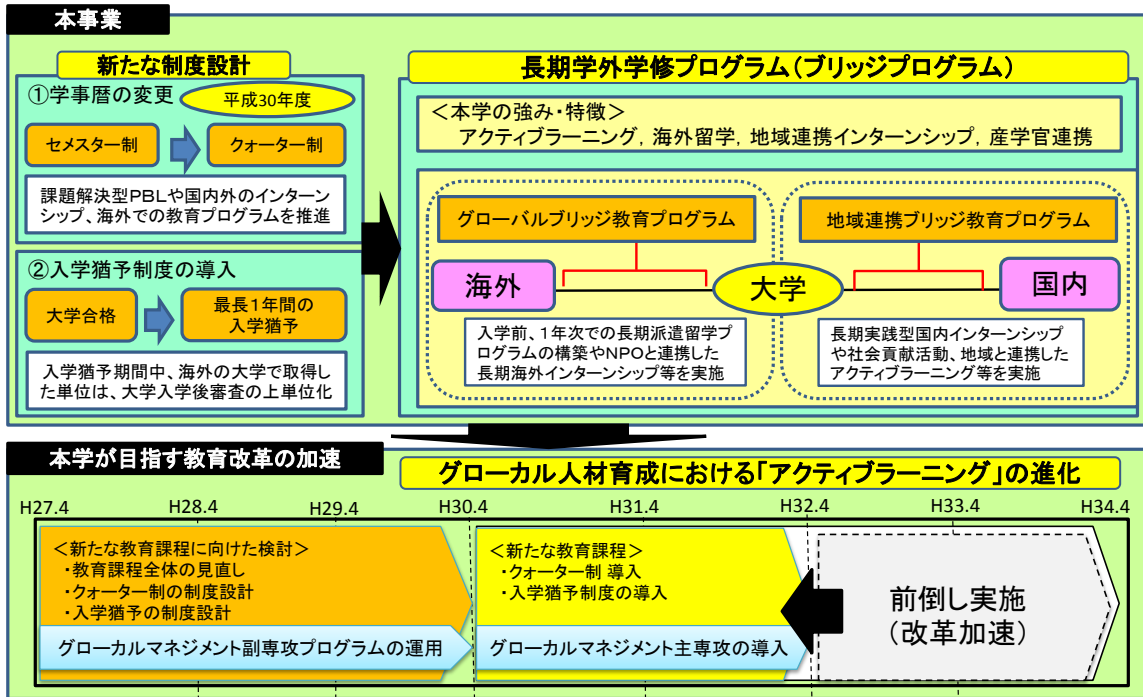
小樽商科大学の「グローバル人材」育成

北海道経済の発展に寄与する
「グローバル人材」の育成



AP-IV : クォーター制・入学猶予制度の構築

「クォーター制」及び「入学猶予制度」の導入により教育課程の改革を前倒しで実施し、本学が目指すグローバル人材の育成に資する多様な長期学外学修プログラム(ブリッジ教育プログラム)を構築する。



長期学外学修プログラムのための学事暦

【学事暦の変更】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
現行 (セメスター制)	前期 4/6~7/31				夏季休業	後期 9/28~2/10				春季休業			
平成30年度 (クォーター制)	春学期 4/1~6/30		夏学期 7/1~9/30		秋学期 10/1~12/31		冬学期 1/1~3/31						
	前後一週間の休業期間		前後一週間の休業期間		前後一週間の休業期間		前後二週間の休業期間						
	インターターム開講科目		インターターム開講科目		インターターム開講科目		インターターム開講科目						
					長期学外学修期間【タイプA】								
									長期学外学修期間【タイプB】				

【長期学外学修プログラム】

○グローバルブリッジ教育プログラム	事前指導		学外学修実施		事後指導	
○地域連携ブリッジ教育プログラム	事後指導		事前指導		学外学修実施	

小樽商科大学のギャップイヤー制度

グローバルな視点から地域経済の発展に貢献する「グローバル人材」の育成を一層推進するため、入試合格者の入学を**最長1年間猶予**し、海外留学プログラムに参加する「ギャップイヤープログラム」を提供開始

- 長期間の多様な学外学修を経験させるプログラムの設計
- 大学の学びに対する動機を強化し、主体的に学修に取り組む学生を育成するための充実した支援
- グローバルコース（主専攻／2021年度開設）のアドミッションポリシーを具体化し、高校（高校生）に発信する

ギャップイヤープログラムの運用

【選抜要件】

- 語学力（英検2級A／TOEIC650／TOEFL ITP500）
- 入学時の志望理由書（英語）
- 面接試験

【財政的支援】

- 同窓会からの寄附金を原資として、100万円／人を補助

【スケジュール】

- ① 入試合格者の中から、対象者を選考（5名以内）
- ② 本学の科目等履修生として4～7月に事前指導を受けた後ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジで語学やマーケティング等の授業を選択履修（1セメスター：8～12月）
- ③ プログラム修了後、必要に応じて事後の振り返り学修等を行った後、小樽商科大学の学士課程に入学

ブリッジ教育プログラムの開発

ブリッジ教育：社会からの要請ならびに学生のニーズに対応して、大学内における教育と大学外の学びのギャップを埋める教育プログラム

グローバルブリッジ教育プログラム

- 海外研修プログラム
 - ・ アジア・オセアニア事情
 - ・ ヨーロッパ事情
 - ・ アメリカ事情
- 語学研修プログラム
- 交換留学プログラム
- **ギャップイヤープログラム**

地域連携ブリッジ教育プログラム

- 長期インターンシップ
- サービスラーニング（ボランティア）
- 地域連携 P B L



教育効果・事業成果の評価／入試制度

■ 教育効果の測定

- 語学（英語）：TOEFL ITPテスト
 - ・ 海外研修プログラムの事前・事後に受検
- 汎用的技能・コンピテンシー：
 - ・ 市販のアセスメントテストを試行導入
 - ・ ギャップイヤーやブリッジプログラムなどの長期学外学修プログラム参加学生の特性と学びの可視化（※当日説明）

■ グローカル総合入試（2021年度より）

名 称		定員	出願要件	共通テスト	個別学力検査
グローバル総合入試	一般枠	15名	英語認定試験 CEFR B1以上	課さない	書類審査 口頭試問
	理系枠	5名	数学IIIの履修		

地域の未来を拓くグローバル人材

北海道に求められるグローバル人材像

北海道への誇りと異なる文化への寛容を身につけ、国際社会に貢献する高い志と広い視野を持って、地域や世界の課題解決に向けて主体的に取り組もうとする意思を持つ人材

○道内に根ざし、世界を見据えて活躍する人材（例）

- ・ 地域で暮らす外国人と、積極的にコミュニケーションを図って交流できる人材
- ・ 地域社会で外国文化を紹介するなど、国際理解・国際交流に貢献する人材
- ・ 外国人観光客を含む、外国人が過ごしやすい受入体制づくりに携わる人材
- ・ 道外の国や地域に向けて道産品の輸出取引を行うなど、海外販路の拡大を担う人材

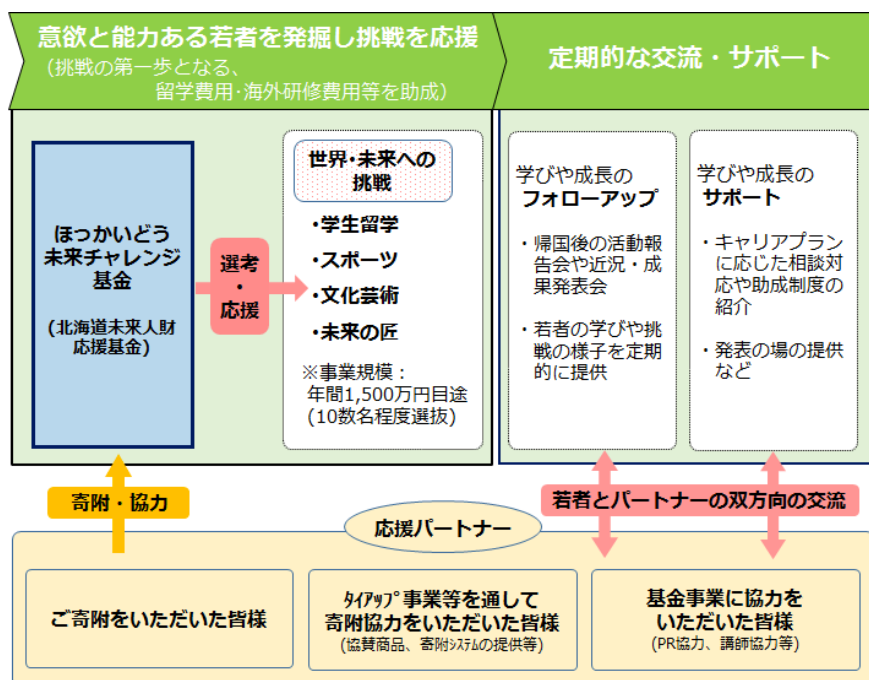
○海外に居ながら、北海道に心をおいて活躍する人材（例）

- ・ 海外の国や地域に対して道産品の販路開拓・販売促進に取り組む人材
- ・ 海外で暮らしながら、日本や北海道の魅力発信に取り組むなかで、国際理解・国際交流に貢献する人材
- ・ 国際舞台で活躍する芸術家やスポーツ選手などの人材
- ・ 国際機関で活躍するなど、世界的視野で世界や国際間の問題解決に携わる人材

北海道グローバル人材育成方針案検討委員会（2016）：「北海道におけるグローバル人材の育成に向けて」

地域の未来を拓くグローバル人材

【ほっかいどう未来チャレンジ基金（トビタテ！地域人材コース）】



「ほっかいどう未来チャレンジ基金」ウェブサイトより

地域の未来を拓くグローバル人材

これからの企業 社会が求める人材像と大学への期待
～個人の資質能力を高め、組織を活かした競争力の向上～

概要

＜問題意識＞

- わが国の競争力を高めるうえで、資質能力の高い人材育成は急務であり、社会全体で真剣に考えなければならない。
- 人材育成の具体性について、産学官で十分な意思疎通が行われてこなかった経緯があり、企業が望む人材の育成はまだまだ途上にある。
- これは企業が大学側に求める人材像を明示してこなかった点が大い。

＜提言の目的＞

これからは企業も大学の教育内容に対して積極的に情報提供していく責務があることを踏まえ、

- グローバル社会・経済の中で、日本の置かれた状況を踏まえ、求める人材像を示す。
- 求める人材の育成に向けて、企業、大学がなすべきことを提案する。

わが国を取り巻く環境 社会構造の変化と人材育成の課題

①企業 社会の変化

- グローバル競争の激化、産業構造の変化（1次・2次産業 → サービス関連産業）、特にここ10年程の技術革新やビジネスサイクルの速さ
- 少子高齢化による生産年齢人口（15～64歳）の減少 ⇒ 将来の社会を支える人材の不足

②大学を巡る環境変化

- 大学・短大の進学率50%超（大学全入時代）、大学生の学修時間の不足 ⇒ 大学生の資質能力の低下懸念
- 雇用のミスマッチ（学生の企業志向 ⇒ 中小企業の人材不足）
- 新規卒業者3年以内の離職率は30%前後で推移、若年無業者やフリーターの増加

教育 採用に関する企業の意識 ～大学との対話を進めて～

①企業が求める人材像と必要な資質能力

- 変化の激しい社会で、課題を見出し、チームで協力して解決する力（課題設定力・解決力）
- 困難から逃げずにそれに向き合い、乗り越える力（耐力・胆力）
- 多様性を尊重し、異文化を受け入れながら組織力を高める力
- 価値観の異なる相手とも双方向き合いながら対話力（コミュニケーション能力）

②企業が大学に期待する役割

- アクティブ・ラーニングの導入によるコミュニケーション能力の向上
- 様々な社会活動体験の増加：留学、インターンシップ、ボランティア
- 学生の能動的な学びによる学修時間の充実

人材育成に向けて企業 大学がなすべきこと

①企業がなすべきこと

- 企業が求める人材像の明確化と発信
- 採用選考における学業成績の積極的な活用

②企業と大学が協力すべきこと

① インターンシップの強化・充実

課題	望ましい枠組み
・大学の組織的な関与が少ない	・大学の支援体制整備
・企業側の体制、プログラム企画・立案が未整備	・大学が関与する形でプログラム開発
・期間が短い（週間程度が主）	・教員の関与によるPBLの実践
・大学3年生、修士1年生の参加が主で、参加者が少ない	・大学のより一層の単位化
・報酬の支給がない	・長期化（3ヵ月以上）
	・学部1、2年生からの早期参加により、裾野を広げるとともに、その後の学びに生かす
	・報酬の支給 実費の支給は必須

② 産学連携の一層の推進

- 学生参加型の産学連携研究の拡充
- 実務家教員の受け入れや企業人、社会人による教育の推進
- 社会ニーズを踏まえた教育の推進

③ 産学連携の一層の推進

- 学生参加型の産学連携研究の拡充
- 実務家教員の受け入れや企業人、社会人による教育の推進
- 社会ニーズを踏まえた教育の推進

④ 産学連携の一層の推進

- 学生参加型の産学連携研究の拡充
- 実務家教員の受け入れや企業人、社会人による教育の推進
- 社会ニーズを踏まえた教育の推進

大学 学生に対する期待

① 大学への期待

- 大学ビジョンの明確化・具体化と機能の強化・分化
- 国際化対応：優秀な外国人教員の受け入れ、英語による授業・情報公開
- 教員の資質能力の向上

- 教員評価の徹底と教員の教育力向上：学生の就職実績や就職先の評価も踏まえ、教育に重きを置いた評価システムの構築に期待。海外や学内外から優秀な人材を登用できる体制づくりが必要。確かな授業力を備えた高校教員が大学教員に転じ、一層活躍することも期待。
- 大学教員の資質能力向上：学校運営に係る重要な役割を担う職員は、教員と分担して業務の効率化、高度化を目指す。⇒ 教員・職員ともに、年功序列型の価値観からの脱却、成果に応じた弾力的な処遇への移行に期待。

② 卒業生の資質能力の保証

- 教育内容・レベル、学生の到達度の明確化と学業成績への反映
- 卒業資格の厳格化
- 学び・専攻の柔軟化

③ 学生への期待

- 自己のための大学での真摯な学び
- 専門知識とそれを支える基礎力の修得
- 多様な人と触れ合い、視野を広げるための海外留学等の経験
- 職業観を醸成するためのインターンシップ等の社会経験

(公社) 経済同友会 (2015年4月2日) :

「これからの企業・社会が求める人材像と大学への期待 ～個人の資質能力を高め、組織を活かした競争力の向上～」

地域の未来を拓くグローバル人材



一般社団法人 経済同友会インターンシップ推進協会

【経済同友会インターンシップ2019（概要）】

- ・ 期間：2019年8月～9月（3～4週間）
 - ・ 場所：主として首都圏（全日空のみ海外）
 - ・ 派遣先：10名／10社
 - － コニカミルタ、花王、みずほ証券、野村證券、三井住友銀行、三井不動産、第一生命保険、損保ジャパン、日本航空、全日本空輸
 - ・ 費用等：交通費および滞在費は企業から支給
- ※過去の派遣実績：
- － 9名／6社（2018年）
 - － 8名／7社（2017年）
 - － 7名／6社（2016年＝初年度）

【応募】経済同友会インターンシップ コンビテンシー評価書

学生の所属	大学	学部	年
学生の名	大学	学部	
学入企業名			
詳細担当者	職名等	氏名	

このシートは研修において観察された学生の能力と特性を評価し、インターンシップで得た経験に基づき今後の成長のための指針を明確にするためのものです。貴社のプログラムの目的と内容に応じて詳細項目を選択してください。

個人の能力と特性（コンビテンシー）の評価（※評価する項目の□に○を記入して下さい）

評価項目	内 容	評 価
① 積極的な課題設定	自分の目標を設定し、取り掛かる課題に積極的である	A: B: C: D:
② 課題解決の計画性	課題解決のための具体的な計画を立て、計画的に取り組むことができる	A: B: C: D:
③ 論理的思考	論理の筋を整理し、論理的に考え、説明することができる	A: B: C: D:
④ 遠慮力・批判的思考	バイアスがかかっている意見や価値観に対し、客観的に分析することができる	A: B: C: D:
⑤ 創造性・独創性	独自の視点やアイデアを生み、組織に新しい価値を加えることができる	A: B: C: D:
⑥ 継続と実行力	困難なことのないものの課題に対して、失敗を恐れずに挑戦できる	A: B: C: D:
⑦ 内省的価値観・信念	重要な判断や決断が必要な時に、熟考した上で価値観や信念がある	A: B: C: D:
⑧ ビジネスと社会性	自身の夢や理想が、社会にとって意義のあるものだと感じることができる	A: B: C: D:
⑨ 自己効力	難しい課題でも、過去の業績を根拠として自らの方で挑戦できる自信がある	A: B: C: D:
⑩ 成長意欲・向上心	仕事や経験を基に更に成長する向上心を持ち、能動的に行動できる	A: B: C: D:
⑪ 志願力・行動力	達成が必要な目標で、志願した仕事に意欲的に取り組める	A: B: C: D:
⑫ 積極的な積極性	困難な状況に陥ると、前に進もうとする積極的な姿勢がある	A: B: C: D:
⑬ 感情理解・理解力	状況や状況で感情的にならず、落ち着いて論理的に行動できる	A: B: C: D:
⑭ 興味・探究心	幅広い分野の知識に関心を持ち、未知のものを探究する好奇心がある	A: B: C: D:
⑮ プレゼンテーション	自分の考えを様々な方法で表現し、相手の理解と行動の変化を引き出す	A: B: C: D:
⑯ 柔軟性	環境や状況の変化に柔軟に対応し、臨機応変な判断力がある	A: B: C: D:
⑰ 共感・傾聴力	相手の状況や他人の意見に共感し、見聞き、意見を尊重することができる	A: B: C: D:
⑱ 寛容・協調性	他人の成功や幸福を喜ばせ、失敗や不幸を受け止めて支え合える	A: B: C: D:
⑲ 外交性	人々相手に自らも手を繋ぎ、積極的なコミュニケーションを図れる	A: B: C: D:
⑳ リーダーシップ	互いに成長の機会をグループでも率先して与え、良いチームを作る	A: B: C: D:
㉑ 積極・意欲的協力	目標達成のために積極的に協力を求め、困難を共にして克服することができる	A: B: C: D:
㉒ 課題への向き合い	困難な状況に陥ると、前に進もうとする積極的な姿勢がある	A: B: C: D:
㉓ 自律性	責任と目標を持って自律的に行動し、目標を達成することができる	A: B: C: D:
㉔ 継続への意識	困難・チームへの関心を持ち、その利益を発生して行動・行動できる	A: B: C: D:
㉕ 誠実さ・真実性	正義の実現のために努力し、そうなるように勇気を持って行動できる	A: B: C: D:

その他の意見・コメント